

日農スプレーオイル

[マシン油乳剤]

農林水産省登録 第10601号

有効成分 マシン油…97.0%

性状 澄明可乳化油状液体

安全性：普通物（毒劇物に該当しないものを指している通称）
10ℓ×2、20ℓ×1 RACコード：殺虫[-]

危険物：4-3石-III

有効年限：5年

包装：

特長

- 高精製のマシン油乳剤であり、カイガラムシ、ハダニ類等にきわめて高い効果を示す。
- 日本農林規格（JAS）の有機農産物栽培においても使用することができる。
- 天敵に対する影響が少ない。

効果、薬害等に関する注意事項

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきる。
- 高温時の散布では薬害を生じやすいので、散布は日中をさけ朝夕の涼しい時に所定濃度範囲の低濃度で行う。
- 散布直後の降雨は、本剤の効果が低下するので、特に冬期散布においては、好天の続くときに散布する。
- 調製した薬液は速やかに散布する。
- 石灰硫黄合剤、ボルドー液などのアルカリ性薬剤やジチアノン剤、TPN剤などの水和剤及び銅剤との混用はさける。
- かんきつに使用する場合は下記の事項に注意する。
 - 散布後、葉（特に旧葉）に油浸斑を生じることがあるが日数の経過に従って、消失し、落葉を助長することはない。但し、かんばつ等で樹勢が弱っている場合には散布しない。
 - ジチアノン剤との近接散布は果実に薬害を生じる危険があるのでさける。
 - 3月に本剤を使用する時は、なるべく早めに散布する。この場合石灰硫黄合剤の散布はさける。
- 茶の5～9月の使用は、摘採直後の幼虫発生期に行ない、摘採前4週間は使用しない。
- 桑に使用する場合には、発芽後の散布は薬害を生じるので、冬期又は夏切直後に使用する。
- クワシロカイガラムシ対象の場合は、散布量を十分にし、樹幹がよくぬれるように散布する。特に茶は株元に十分かかるように散布する。
- りんごに使用する場合、芽出し直後の散布は時期を失しないようにする。遅れて散布すると、葉の周囲が褐変することがあるので、使用濃度に注意する。
- うめに使用する場合、新芽には薬害を生じるおそれがあるので使用をさける。
- いちごの苗を薬液に浸漬して使用する場合は、下記の事項に注意する。
 - いちごの苗を薬液に浸漬して使用する場合は、浸漬直前に薬液を十分攪拌してからおこなう。
 - 苗の浸漬の直前に攪拌しなかった場合、重度の薬害（場合によっては収穫不可となる）が認められる場合がある。また、十分攪拌した上で浸漬処理した場合でも葉や茎に油浸斑が認められることがあるが、その後の生育には影響しない。
 - 高温時は薬害を生じるおそれがあるのでさける。
 - 軟弱徒長苗での使用は薬害を生じるおそれがあるのでさける。
 - 初めて苗浸漬をおこなう場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を確認し、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- きゅうり、なす、いちごに使用する場合は下記の事項を守る。

- 1) 幼苗期の散布は薬害を生じるおそれがあるのでさける。また、連続散布する場合の散布間隔は7日以上あけるとともに、過度の連用はさける。
 - 2) 収穫間近に散布すると、果実にオイル光を生じることがあるので留意する。
 - 3) ハダニ類に対しては速効性が不十分であり、また、1回散布では効果が不十分であるので、なるべく発生初期に7～10日間隔でくり返し散布する。
 - 4) うどんこ病に対しては、病害の発生前～発生初期から7～10日間隔でくり返し散布する。発病後の1回散布では十分な効果は得られないので注意する。
 - 5) いちごに使用する場合、他剤との混用及び近接散布は薬害が生じやすくなるおそれがあるのでさける。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

安全使用上の注意事項

- 苗浸漬の際は不浸透性手袋などを着用する。
- 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。

水産動植物に対する注意事項

- 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。
- 浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

適用内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	マシン油を含む農薬の総使用回数			
かんきつ	ヤノネカイガラムシ幼虫 その他のカイガラムシ類 ハダニ類	100~200倍	200~700ℓ /10a	4月~10月	-	散布	-			
	サビダニ類	100倍		-						
	ヤノネカイガラムシ その他のカイガラムシ類 ハダニ類 ハダニ類の越冬卵	50~80倍		12月~3月						
りんご	カイガラムシ類 ハダニ類 ハダニ類の越冬卵	25~50倍		発芽前						
	ハダニ類	50倍		芽出直前直後						
		100倍		展葉期（発芽後2週間まで）						
		200倍		展葉期（発芽後3週間まで）						
もも ネクタリン	カイガラムシ類 ハダニ類 ハダニ類の越冬卵	25~50倍		発芽前				-	散布	-
なし	カイガラムシ類	30~50倍								
	ハダニ類 ハダニ類の越冬卵 ニセナシサビダニ	30~200倍								
うめ	カイガラムシ類	30~50倍								
くり		50倍								
すもも		20~50倍								
おうとう		100倍	発芽後2週間まで							
		20~50倍								
あんず かき		25~50倍								
キウイフル ーツ		100倍								
ブルーベリ ー		ミズキカタカイガラムシ	60倍							
マンゴー		100倍	10月~3月							
いちご		ハダニ類	100~150倍		100~300ℓ /10a	-				
	100倍		-	定植前	1回	5~10 秒間苗 浸漬				
	100~150倍		100~300ℓ /10a	-	-	散布				
きゅうり	ハダニ類 うどんこ病	200倍	100~300ℓ /10a	-	-	散布				

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	マシン油を含む農薬の総使用回数
茶	クワシロカイガラムシ	100～150倍	1000ℓ/10a	5月～9月	-	散布	-
		50～100倍		10月～3月			
	ハダニ類	100～150倍	200～400ℓ/10a	5月～9月			
		50～100倍		10月～3月			
	チャトゲコナジラミ	50倍					
すぎ	スギマルカイガラムシ	100倍	200～700ℓ/10a	3月～10月			
さくら	カイガラムシ類	50倍		発芽前			
桑	クワシロカイガラムシ	30倍	100～300ℓ/10a	12月～3月			
	クワシロカイガラムシ若齢幼虫	60～100倍		5月～11月ふ化幼虫期			

製品写真



最新の登録内容はこちら

